

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和3年11月17日（水）18：30～20：14

場 所：カルチャープラザ「Eki」 研修室A

出席者：28人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

(1) 第7次総合計画の策定について（別紙1・2参照）

(2) 自由懇談

4. その他（情報提供）

(1) 資料4についての回答

(2) 国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙3参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：今年ハサンベツの納屋がオープンしましたが、私は、自治基本条例や議会基本条例、総合計画づくりにも関わってきました。町には財政の問題が不可避ですから、町の事業展開で説明されると、基本的にこれだけのことをしなければならなくなると、お金が無いということになるかな。担当の方からの説明を聞くと、なんとかこのままいけそうと説明を受けて安心しましたが、ハサンベツの納屋を作るときも1千万円かかりました。町から500万円補助していただきました。残りの500万円を町に負担していただきました。そこで実行委員会が声をかけて、500万円のうち200万円を集めて、町単費が300万円となりました。色々な善意があって寄附していただいたことについてはうれしい事ですが、寄附をしていただいた人たちが同時に担い手になってもらうということも目標ではあったんですが、町内の教職員を中心として50万円位寄付をいただきました。駅前的事で話がありましたが、これを新聞で見て、多目的ホールと総合案内とものづくりのDIY工房とFMラジオという事で、地域おこし協力隊の方たちが頑張って作って行って、そこに集客できるのだろうかということについて、町の人から聞いても「できないだろう」と聞いています。町民としてどうすればいいんだと言ったら「そんなこと町になんて言わないよ」とおっしゃるんです。駅前の活性化は町民から発議してなんとかして、と出たことがないんです。その地域に住んでいる人たちがどうというよりも、町民に何ができるのか。法人組織の設立を地域おこし協力隊だけで行っていくことではなくて、駅前の商店街の方とか、あるいは町民の中から同じような志を持った方が、法人を設立していく事でないと難し

いです。由仁農協と栗山農協が合併して 200 個位の農産物がある地域ですから、通年とは言わなくてもできる限り通年の市場みたいな事でどうか。上士幌町へ行ったり色々な所を行ってみて歩いてますけど、秋になれば漬物市で大根と白菜が持ち込まれている市場とか、栗山町だとそこでできると思います。農家の方に手伝ってもらい、そこで町の中に人を入れていく。道路沿いに人を入れていく、また、例えば道路沿いに道の駅を作って失敗しています。缶のポイ捨て場とトイレにしかなくなってみたいな実態があって、町民が手伝いながらそれを作るようになっていく。商店街の人たちが何もしていないとか全然思わなかったけれど、何のためにやるのかというところが無いと、いつの間にか町民が発議したのが、役場が補助金を集めて計画を立てているときに、役場が勝手に何をしているんだという格好になっていく気がします。これからでも遅くないので、内容を多少変更できないのか、それにプラスアルファして総合的にこれを成功させるためのものを行っていく必要があると思います。ハサンベツの里山づくりを例に出したのは、もう少し住民も自分たちの力を出す。あるいは、困ったときに自分たちの財政的な支援も含めて町と一緒にやっていくような気概が無いとできていかないのではないかな。そのような形で見直していかないと、財政指数のための事務処理みたいな形で総合計画が進みます。小林酒造の歴史的建造物を残す時、町と小林酒造が 500 万円ずつ出しながら屋根を整備して当面 10 年以上保つような施設にしましたよね。それで景観が完了しました。完了した後建物の中をどうするのかというに進んでいない。昨日の新聞で栗山の青年たちのさつまいもの記事が出ていました。倉庫が無いからこれ以上さつまいもを増やせないと言っているんです。北海道でも充分さつまいもは美味しいので、ハサンベツでも子どもたちに食べさせてるんです。レンガ倉庫は 15℃までなんです、夏でも 15℃。さつまいもは 15℃だったら芽を出さないんです。じゃがいもだったらもっと低温に置かないと芽を出してしまう。さつまいもは 15℃の時点でそのまま維持され保管できます。そういう施設が必要なんです。外側だけ残したけど中はどうするか、そういう利用の仕方になるのかなと思います。こういうことを町民の意見交換するような場を設けて、意見を言う、どうすればできるか。これでできれば不満ばかり言っていないで、栗山の町をどういう町にするかを町民がやることによって、それを子どもたちが見て栗山で育った子どもは例え町外に出ても、この町で生きたという誇りを持つようになると思います。ふるさと教育というのは自然体験学習だけではないんです。自然体験学習を、自然を残してきたという 30 年以上の歴史を教育委員会や町民の努力をしてやってきたというやり方を当時の泉麟太郎さん以下の、南学田の用水路を引いて、北海道で一番先に角田に古い家を作って住んだという、そういう町民活動と、みんなが力を合わせて協働の輪を作っていくという、そういう精神のものでふるさと教育を作りました。そういうような気持ちでこういう懇談会に、まちづくりや駅前の商店街の活性化だとかも、みんな考えていくみたいな体制づくりを町がリーダーシップを取ってやってほしいと思います。

町長：栗山駅南交流拠点施設ですが、今のままの商店街、その近郊の市街地地域、このままで行くと縮小し、衰退していく可能性がある中で、国の補助事業を活用して、施設をメインに商店街の活性化に結びつけていこうというのが大きな目標です。国との協議、そして地域の方々の協議を経て、ものづくり DIY やレストランなどを一つ一つ組み立てています。これから農産物の市場など、施設がもう少し輝きを増すような、メインとなる施設になっていけばいいなと思っていますし、住民の皆さんと一緒に育てていくような賑わ

いの拠点になればいいなと考えています。施設を活用した色々なご意見もいただいていますので、総合的に勘案しながらこれから加えていきたいと思っています。施設の運営についても、最初は町が直営で運営していくという考え方です。将来的には今関わっていただいている10名程の地域おこし協力隊、優秀な方ばかり集まっていただきました。FM局などは、北広島市の方でパーソナリティを実際にやってらっしゃる方が、栗山でも自分の力を使いたいと言ってくださって、関わっていただいたりといろんな方がいます。DIY工房に携わる2人は、昨年まで鎌倉の「ファブラボ鎌倉」という日本で1番賑わっているDIY工房、そこへ研修に行って学んできて、そのノウハウを栗山で発揮することで、これが動き出すと、子どもたちも交えながら学校教育やそういったものに携わっていくことになると思います。そして、栗山は元々物づくりの町なんです。匠まつりをご存知かと思いませんけれども、物づくりに関わる方はたくさんいらっしゃいます。そういう方ともコラボしながら良い形で作ればいいかなと思っています。本当に栗山の賑わいの拠点となる、商店街の活性化という町の懸案。これを解決していけるような、そういう施設に町民で、我々も含めて育てていくんだという気持ちで事業を展開していきたいと考えてます。小林酒造の関係については、外観の部分は小林酒造さんとで拋出し合って改修させていただきました。あのままでいくとレンガ倉庫が潰れていた可能性がありました。ご指摘をいただきながら、レンガ倉庫を残すための改修整備をさせていただきました。今後、倉庫をどういうふうを活用するかということが課題となっております。町がレンガ倉庫を購入して、新たな施設を作っていくというのは難しいと思っています。ただ可能性を将来に残していく努力や整備をきちんとすることによって、色々なチャンスが巡ってきます。他の民間企業の方が活用したいとか、色々なことが想定されますので、お話が来たらすぐ対応できるような準備だけはしなければならぬと考えていますので、皆さんとお話ししながら進めていければと思います。

町民：赤十字病院の改築には期待していますが、町に介護施設がいくつかありますけど、今年、去年からのコロナの影響で、1番介護の人たちが大変なのが、スタッフが足りないという事です。介護、訪問介護するスタッフが足りない。人を集めればいいのかという事ではなく、中身が大事ではないかと思っています。遅くまで仕事しなきゃいけないとか、人を集めれば簡単にいくのではと思われるけど、介護を担当する人たちが少なくなってきたという現状があって、仕事が厳しいとか、報酬額が少ないとかです。もう一つは従事して「私は何のためにやってるのか」という事になってくると、せつかくの訪問介護や看護などを含めて評価されない。介護する人たちには指導です。自分たちの行っている介護が本当にこれでいいのか。と振り返る時間をきちんと確保していかないと、疲労ばかり溜まります。そこにはやはり指導する人たちがきちんとこういう時はこうする。指導者と新しく入った人、こう経験してきてまたこんな指導する立場になって次の人を育てていく。介護の人づくりという事を考える必要があるのではないかと思います。介護学校は学生が少なくなっていますが、中身を充実して本当にやりがいがある介護の道というものを作っていけば、学生さんもまた増えてくると思います。それをするには、1番大事なのはやはり医者がリードしていかないと、介護を担当している介護士さんたちが声をあげても医者が動かなかつたら何も動かないんです。いい例が、由仁町が訪問介護、由仁町立病院の先生が中心になって介護を受ける人が、例えば栗山町の人だったら栗山町まで来て、この人はこういう治療が必要だ、それをどうやろうかというのを、由仁町の先生が直接栗山

の先生にお願いしますと回っています。そういうふうにドクターが動かないと、介護と言っても人は集めても何もならないです。期待しているのは、栗山赤十字病院の中身です。建物はもちろんですけど、その中身に地域の訪問介護を育てるような次の人を育てる、あるいはその介護の中に入れていただけるようなシステムを作っていたらいいかなというのを期待します。そうしていくと介護士も変わってくるし、こういう面もあるのかと。若い高校生や卒業した子に、今どこに行っているのと聞いたら、看護師になるための学校に行っている人が多いんですね。若い人が医療の方に行って、そういう人たちがこっちに帰って来る時に帰ってこられるような仕組みを作るためにも、そういう人づくりというのを、介護の面で考えてもらったらどうだろうかと思います。もう一つは、駅前に交流施設を作っていますね。建物のところに歩いて行きます。心配なのは、ここに人は来るかなということです。ラッキーのある所は人が動いているから、買い物に行くから、人の流れが見えますが、建物の中身は、FM の設置などはいいですけれど、人がこう行ってみようか、あっちにもちょっと足を伸ばしてみようかと思わせるものが、これから作られると思います。今年のオリンピックで特集されてるのを見ましたが、山小屋みたいな所の中に、スケートボードのコートを作っている所があって、誰が利用してもいいんです。いつ利用してもいい。そういったものを作ったら、若者が集まってくるんですね。駐車場もたくさんあったらいいですけど、駐車場のスペース、ちょっと向こう側にそういったものを作るとか、フットサルのコートをいつ使ってもいいというようなものを作ったら、汽車も通りますからみんなも「ここは何をやってるんだろう」と言う。注目を浴びるのではないかと思います。若者たちが呼び込めるような施設、誰が使ってもいいし、いつ使ってもいいしということで、そういったものを赤レンガの建物の近くに作ってもらおうと、中を見に行ってみようとか、流れができてくるんじゃないかなと、そういう考え方です。そして三つ目なんですけれど、帯広のキッチンカーのチラシが入っていました。あの美味しいハンバーガーを売りますというチラシが入ってまして、帯広から来るのかと思って、注文してみたら美味しく、何人か食べました。遠いところからでも、車を使って実際に持ってくる、身近に持ってくるということは、いいものだ、興味があるんだなと思いました。栗山は農村がバックボーンにありますから、材料はいいものがたくさんあるから、そういったものを赤レンガ倉庫の毎週日曜日の 7 時とかから朝市をするとか、車を使って離れた所にも動いたりして、そういうのを考えていくと、建物も生きていくんじゃないかなというふうに思いました。建物の計画ができれば、その中身を若者たちも呼ぶような計画にしていけたらと思います。

町長：栗山赤十字病院の訪問介護・看護を含めた関係については議論をしてる所で、新しい栗山赤十字病院の中に、訪問介護ステーションを作る予定になっています。栗山赤十字病院がこの地域医療の核となって、介護施設と連携して、地域包括ケアシステム、栗山町なりのものをしっかり作っていくということで、これから基本構想としてまとめていきます。栗山駅南交流拠点施設ですが、これから工事に入っていきますが、スケートボードとか3人制のバスケットコートなどを計画に入れていきます。駅のそばでも、少し外れていますので、そこにいかに集客していくか、若い方を中心に集めるかというのが、今後の課題と位置づけています。ご提言がありました部分も含めて、これからみんなで検討していきたいと思います。

赤十字病院改築準備室長：質問の中に訪問看護の関係がありました。栗山赤十字病院の改築

をした契機に、以前ありましたが、訪問看護ステーションを栗山赤十字病院内で実装したいと日赤の方からのご提案がありまして、改築の際にはステーションが配置される形となっています。他に、要望というか相談ベースではありますが、訪問看護を実施する中で、医療と介護の連携が重要であるということがありますので、メディカルソーシャルワーカーや介護の相談を受ける専門スタッフ、そこと介護のサービスに繋げるために町のケアマネージャーさんと連携を密にして、退院時すぐ介護を受けられたり、介護認定を受けて施設の方への繋ぎをしっかりとる事で、人材の交流も含めて詰めている最中です。栗山赤十字病院は退院をされて在宅に戻ると、その中で介護が必要ということであれば、訪問介護でしっかりケアをする。後は介護の方での在宅サービスにつなげていく。そういう連携を密に取れるような形に訪問看護ステーションの方も開設をしていくという流れになっています。これから詰めていくことがありますが、より在宅で生活ができる環境を作ることで、今後さらに協議を進めていきますのでよろしく願いいたします。

町民：栗山監督が日ハムを退団しました。栗山監督のおかげで栗山町の名前も全国的に見ていただきましたし、グラウンドを作って、子どもたちの野球教室を行っております。本当に栗山町を全国に売り出してもらったわけですが、町としては栗山監督のご功績に何か考えてるか伺いたいです。町の栗山高校の魅力作りというのがありましたが、女子硬式野球部が発足するようでありまして、また先般は、夏の大会で男子が1回戦を勝ち、喜びを得たわけですが、栗山監督と栗山高校の野球部と今後関連があるのかどうか伺いたいと思います。栗山高校魅力づくりと言ったら、以前は栗山高校には家政科・農業科がありました。由仁商業高校が閉校になりまして、商業科に行っていた生徒がどこへ流れていくのかと見ていました。栗山高校は普通学校の教育ですから、入ってくることがなかったと思いますが、栗山高校に商業科だとか農業・家庭科は無理かもしれませんが、生徒を入れるということが考えられるのかどうかお聞きします。三点目はケアラー事業ですが、サンタの笑顔、あるいは角田・継立でサポーターが移動して対応してもらえます。栗山町内でサンタのほほえみが1箇所しかない。行きたいけれども、遠いから歩いて行けない。こちらに作る話はないんでしょうかと聞くことがありますが、社会福祉協議会としても、ケアラー事業が一番のメインということで、不自由のない充実したケアラー事業を進めるため、そういう拠点はどこかにもう1箇所できればありがたいと考えています。

町長：栗山監督が退任されて、栗山町のPRを含めて貢献をしていただいたと私も思っています。まだ準備段階ですが、10年間の監督時のご尽力と、栗山監督とはもっと以前から栗山町と青年団体との交流などを通じて、まちづくりも積極的に関わっていただいている、本当に栗山町からすると恩人のような方ですので、何か監督に感謝の意を表せられないかということで、大きな規模にはならないかもしれませんが、感謝会のようなものを考えています。町全体としての感謝の気持ちを監督にお伝えしていきたいと考えています。その後もまだ去就が分かっていませんが、これでぶつ切り切れるとかということではなく、これまで築いてきた監督と町と絆ですね。こういったものはしっかり大切にしながら、これからも関わらせていただきたいというふうに思いますし、監督自身も、栗山のまちづくりにこれからも関わっていただきたいなと思っていますので、関係性はこれからも継続するようお願いをしていきたいと思っています。

教育長：女子野球部設立に向けて、指導者はもう決定しています。待遇面等々のことで進めている所です。まだ、はっきりした返事もいただけていないので、これから具体的に動

きます。連盟の方の会長さんにも、教育委員会職員が出向いて説明をしながら具体的な手続きに入ってきているということです。はっきり決まりましたらお名前も申し上げられるかなと思います。高校の魅力作りにつきましては、道教委は、商業科やスポーツ科、情報教育科など色々ありますが、何を言っても 100%断られます。とすると普通科で何ができるかという所に着目して知恵を出し合わなければなりません。何々科というその増設の事については約 10 年前にもう全て終わってる事業です。普通科については数字で全て判断されていきます。例えば間口の問題もそうです。ただ栗山は全道の中でも稀なチャンス一度、今年、来年度に向けていただいています。その間口の所での勝負は今の段階ではできません。存続の方に向けて舵取りをしていかなければならないかなと思っています。存続については、先ほど言った頭の中に描いているもの、これをしっかりとやっていきたいという風に思っています。女子野球部は創設は無理です。1 年目からは集まりません。集まらないけれども、何ができる、何に繋げる。そこだけをしっかりと見据えて対策を取りながら前に向かって進んでいきたいと思えます。唯一残っていたのが特別支援です。でもこれも美唄に先を越されています。月形も手掛けています。月形の高校に対する助成金等、手厚いんですが結局集まっていません。空知全体を見ると、岩見沢のある高校だけです。倍率越えは 1 校と農業高校の一科目だけです。他は定員割れです。道教委から間口二つをいただいたというのはすごいことです。町民のみなさんの汗と血が必要になってきます。第 2 回目の各中学校、南空知ですが、高校進学の見先が決定しました。この後調整に入ります。調整に入っても定員割れです。全学校、その一学校以外です。東高、西高、緑陵高校があります。去年は西高、緑陵高校に落ちた子どもが東に入っています。今年もその現象はほぼ確実にありそうです。ですので色々な夢があると思えます。夢とともに、現実の視角から見ながら、普通科高校という栗山高校をどう支えるのかという現実の話もしていかなければならないと考えています。先ほど、看護と病院の話が出ました。栗山にはそこにつなげる教育というのも一つの道かもしれません。小中高のキャリア教育を行っていました。キャリアというのは様々な方向性を生み出すものを作れます。栗山小学校にはそのカリキュラム時間数も取っています。総合的に考えて、一つ枠組みを作る事も考えています。第 7 次総合計画は、教育委員会といたしましても、今後の教育に対してもビジョンを作っています。大綱も改正します。しっかりと 1 年 1 年の行政方針を立てていきたいということで作成しています。1 月には皆さんのお声に触れる、意見を聞く場も作れるかなと作業を進めています。3 月の議会にも間に合わせたいと、学校の教育を教育方針と立てるのはしっかりとしたビジョンのもとに立てていかなければなりません。栗山町の独自の中身も打ち出していかなければならない。隣町にできないもので栗山町にできるものは何なのか。この規模だから作れるものは何だろうということを重点的に行う。この中で一番中心に置いているのは人権です。この人権をしっかりと支えられる町であって欲しいと願っています。社会はルールがあります。ルールをはみ出したら戻せる勇気のある町であって欲しいと願っています。大人が示さないと子どもはついてきません。そんな町であってほしいと願っています。そういう願いを込めてビジョンをしっかりと作ります。

福祉総括：ケアラー支援ですが、今年 4 月から本町のケアラー支援条例が施行いたしました。色々取り組みを進めていく所です。この取り組みは 10 年ほど前から社会福祉協議会が中心となって進んできた取り組みです。ケアラーズカフェの設置ですが、栗山町内には

役場の向かいのいきいき交流プラザの中に、ケアラーズカフェ、サンタの笑顔があります。社会福祉協議会で運営していただいています。コロナも収まって人が集まっています。その他に各地域で小さくカフェあるいはお年寄りやケアラーを含めて繋げる場をいくつか設置しています。中央団地やふじ団地ですとそういう取り組みも行われています。町としても、歩いて行ける距離にカフェとか、あるいはお年寄りが気軽に集まれる場所、こういうものの設置を推進していきたいと思っています。最近では、松風会館を利用して、お年寄りが自ら企画して色々な事業展開をしています。体操の先生を呼んで高齢者の方と体操したり、お茶を出したり、こういう取り組みをできれば全部の地区にやりたいと思っていますが、そういった仕掛けを町、そして社会福祉協議会と協力しながら、町民の方と相談しながら自ら運営していただけるようなシステムを作りたいなと思っています。これからできそうなところは錦の方です。今、相談をさせていただいています。コロナが収まりを見せていますので、各町内に足を運んで相談させていただきながら多くの方が集える場所を作りたいと思っています。

20 : 14 終了